

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

基山町の発展に向けた交通ネットワークの整備

2 地域再生計画の作成主体の名称

佐賀県、佐賀県三養基郡基山町

3 地域再生計画の区域

佐賀県三養基郡基山町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現況

基山町は、福岡県筑紫野市と小郡市に隣接する佐賀県の東の玄関口で、国道3号、九州自動車道、JR鹿児島本線が通る九州の交通の要衝となっている。また、1日約1万人が訪れる九州自動車道基山パーキング・エリア（以下、基山PA）は、九州域内を中心とした交流の拠点となっており、福岡へ行き来する者が立ち寄るとともに、九州各県へ向かう高速バスの多くが停車することでも知られている。

町内の観光資源としては、日本最古の朝鮮式山城である「基肆城跡（きいじょうあと）」や基山（きざん）草スキー場、つつじ寺で有名な「大興善寺」があり、四季折々に多くの観光客が訪れている。また、御神幸祭りや園部くんちなど由緒ある祭りや、春秋のJRウォーキング、ふれあいフェスタ、きのくに祭りなど町外の方にも楽しめるイベントなど多彩な催しを行っている。

さらには、昨年度から基山草スキー場での草スキー大会の開催や、モール商店街でのマルシェ事業・Kappo 事業の開催など新たなイベントの定着に取り組んでいる。

4-2 地域の課題

基山町では、こうした観光資源や祭り・イベント等の開催で一定の集客効果は上がっているものの、それぞれが単体で存在しているため町内の周遊に繋がっておらず、滞在時間の延長が図れていない。

これに対応するため、平成28年度には地方創生加速化交付金事業「魅力ある空間形成プロジェクト」において、町内の観光資源等を映像コンテンツ

で発信する事業と、新たな町内散策コース設置と観光サイン事業に取り組んだところである。

しかし、映像コンテンツの発信や周遊のための仕掛けづくりにより来街者の増加、それによる交通量の増加が見込まれるものの、基山PAと北西部にある基肆城跡、基山（きざん）草スキー場と中心市街地を接続する道路網に限界があるため、観光客が周遊するための道路ネットワークの整備が不十分で課題となっている。

4-3 計画の目標

前記の現況を踏まえて課題を解決するため基山町では、基山町まち・ひと・しごと創生総合戦略の柱の一つに「基山町を通過点から交流拠点へ」を掲げている。

ここでは、基山PAやJR基山駅周辺などを集客拠点の中心と位置づけ、基肆城跡、基山草スキー場、大興善寺等の各集客拠点を結び、林道を含めた町内の道路ネットワークを再整備し、来街者・観光客の滞在時間を延長させ観光振興を核とした産業の振興を図る計画である。

また、基山町ではウォーキングルート7コース・JRウォーキング1コースに加え、今回新たに神話探索コース4つを加えウォーキングルートの整備を行っているが、本事業で林道を拡幅することによって中型バスによる基山（きざん）草スキー場への往復便が可能となり、車とウォーキングを組み合わせた交流人口の増加が図れる。このことによって、町民の生活基盤の向上と林業の活性化が期待できる。

こうした観点で、国道等の幹線道と町道・林道のネットワークを一体的に考えることによって、町民及び来街者・観光客の活動量が増えれば、まちの活力をさらに拡大させることができ、従来からの定住人口に加え、新たに交流人口という視点で基山町の人口を捉え、より質の高い行財政運営に努めることで、訪れる価値がある町としての魅力の向上を目指すものである。

また、森林の保全に必要な林道の機能強化により、間伐実施面積を増加させ、価値のある優良木材の育成を推奨し、優良木材の搬出路の確保やサカキなどの特用林産物の拡大による林業の振興が図れるとともに、森林の持つ多面的機能の増進により一般市民等への癒しなどの効果の提供を行う。

- (目標1) 大興善寺入園者数の増加
7.6万人（平成27年度）→8.0万人（令和5年度）
- (目標2) JRウォーキング参加者数の増加
2,478人（平成27年度）→4,000人（令和5年度）

- (目標 3) 特用林産物サカキの売上額の増加
373 万円 (平成 27 年度) →1,000 万円 (令和 5 年度)
- (目標 4) 基山 (きざん) 草スキーの利用者数の増加
11,346 人 (平成 27 年度) →17,100 人 (令和 5 年度)
- (目標 5) 基肆城跡および文化財の見学会・遺跡探訪参加者数の増加
150 人 (平成 27 年度) →300 人 (令和 5 年度)
- (目標 6) 間伐実施面積の増加
3.2ha (平成 27 年度) →7.0ha (令和 5 年度)

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

基山町は、九州自動車道が縦断し、高速バス停を有する基山 P A、国道 3 号など幹線道路が整備されており、福岡都市圏からのアクセスは容易である。しかし、幹線町道網が脆弱であり、また町内の 3 分の 1 以上を山林が占めているため森林の荒廃や多面的機能の低下が進んでいる。また、地域住民の利便性の問題に加えて、災害時の集落孤立の不安も危惧される場所である。

そこで、町の基幹道路である「町道白坂久保田 2 号線」を中心として、「町道三国・丸林線」、「町道城戸 1 号線」、「町道うそん谷線」、「町道深底線」、「林道寺谷線」の既存道路拡張等を行うことにより、効率的な道路網を構築する。それにより、地域の豊富な観光資源がネットワーク化されることで観光客数の増加・滞在時間の延長を図り商工サービス業の活性化を推進するとともに、地域住民との交流も促進される。加えて、森林施業における効率化と生産コストを抑えることで、林業・木材産業の生産性を向上させ、林業の振興を図っていく。また、住民の利便性の向上や災害時の孤立への不安の払拭を図ることにより、全体的に町に潤いがもたらされる。

5-2 第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生道整備推進交付金【A3008】

対象となる施設は以下のとおりで、事業開始に係る手続き等を完了している。

なお、整備箇所等については、別添の整備箇所を示した図面による。

- ・町道 道路法に規定する町道に認定済み。() 内は認定年月日。

白坂久保田 2 号線	(平成 21 年 6 月 15 日)
三国・丸林線	(昭和 28 年 3 月 23 日)
城戸 1 号線	(昭和 28 年 3 月 23 日)
うそん谷線	(昭和 28 年 3 月 23 日)

深底線 (昭和 36 年 3 月 31 日)

・林道 森林法による佐賀東部地域森林計画書（平成 27 年策定）に路線を記載。

寺谷線

[施設の種類の種類] [事業主体]

- ・町道 基山町
- ・林道 基山町

[事業区域]

- ・基山町

[事業期間]

- ・町道 平成 29 年度～令和 5 年度
- ・林道 平成 29 年度～令和元年度

[整備量及び事業費]

- ・町道 0.6 k m
- ・林道 0.1 k m、林道の保全対策（点検診断） 2 箇所
- ・総事業費 165,233 千円（うち交付金 79,640 千円）
町道 147,761 千円（うち交付金 73,880 千円）
林道 17,472 千円（うち交付金 5,760 千円）
うち林道の保全対策 2,592 千円（うち交付金 1,296 千円）

[事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法]

(平成/年度)	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
指標 1 観光地までのアクセス改善								
基山駅～基山 P A	15 分	15 分	15 分	5 分	5 分	5 分	5 分	5 分
基山 P A～基肆城跡(基山草スキー場)	30 分	30 分	30 分	30 分	30 分	30 分	30 分	20 分
基肆城跡(基山草スキー場)～基山駅	20 分	20 分	20 分	20 分	15 分	15 分	15 分	15 分

毎年度終了後に基山町の職員が必要な調査等を行い、速やかに状況を把握する。

[事業が先導的なものであると認められる理由]

(政策間連携)

町道及び林道を一体的に整備することにより、個別に整備するのに比べて、効率的かつ効果的な施設配置が可能となり、観光地の連携や林業の振

興といった地域再生の目標達成により資するとともに、全体の整備コストの削減が期待できるという点で、先導的な事業となっている。

5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「基山町の発展に向けた交通ネットワークの整備計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当無し

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 森林環境保全直接支援事業

内 容 面的なまとまりをもって間伐を行う（林野庁支援事業）。

実施主体 基山町

実施期間 平成29年4月～平成30年3月

(2) 美しい森林づくり基盤整備交付金

内 容 森林の間伐の促進に関する特別措置法に規定される予定である「特定間伐等促進計画」に基づく取り組みを支援し、間伐等の実施の促進を図る（林野庁支援事業）。

実施主体 基山町

実施期間 平成29年4月～平成30年3月

(3) 観光地の魅力向上

内 容 基山町にある大興善寺、基肆城跡、荒穂神社など神話から古代の由緒ある観光資源を散策ルートで繋ぎ、観光サイン事業や4か国語による観光案内のHP、映像コンテンツを複合的に結び付けて世界に発信することで、一年を通じてインバウンドを含めた観光客の呼び込みを推進する。

特に、基山（きざん）草スキー場を新たな集客拠点して機能させるため、昨年度から実施している「草スキー世界大会」の定着による草スキー利用者の増加を図る。

また、本年度誘致した「摘み取りライチ」による観光農園（平成31年度開園）を核とした観光農業の定着や、開祖1300年を迎える大興善寺と連携した新たな集客イベントを行

う。

(地方創生加速化交付金事業「魅力ある空間形成プロジェクト」等)

実施主体 基山町・基山町商工会・基山町観光協会

実施期間 平成 28 年 4 月～令和 2 年 3 月

(4) 公共交通機関の連携強化

内 容 町内の鉄道駅や公共機関、商業施設と接続した「基山町コミュニティバス」により、山間地区から市街地までの交通手段を確保していく。また、九州全域に向かう高速バスが発着する基山PAにも接続しているため、町外からの来訪者の町内移動手段も確保している。その他「のりかえきっぷ」や75歳以上の町内居住者がお得に利用できる「げんきっぷ」、地元商店街と連携した「コミバスポイントカード」など利用者の利便性を図っている。

実施主体 基山町

実施期間 平成 26 年 7 月～

(5) 定住の促進（中心市街地整備事業）

内 容 アクティブシニアや子育て・若者世代の移住と併せて、町内在住の高齢世帯に対して、中心市街地への住み替えを推進するとともに、アクティブシニアの活躍の場の提供と子育て環境充実のための施策を一体的に実施するため、地域再生計画の認定を受けた事業「多世代希望のまち基山プロジェクト」を展開する。（地方創生推進交付金事業）

実施主体 基山町

実施期間 平成 28 年 12 月～令和 2 年 3 月

6 計画期間

平成 29 年度～令和 5 年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

外部委員等により構成された「基山町まち・ひと・しごと創生推進会議」により検証のうえ、次年度以降の施策に的確にフィードバックすることとしている。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

	平成 27 年度 (基準年度)	平成 31 年度 (中間年度)	令和 5 年度 (最終目標)
目標 1 大興善寺入園者数の増加	76,000 人	78,000 人	80,000 人
目標 2 J R ウォーキング 参加者数の増加	2,478 人	3,300 人	4,000 人
目標 3 特用林産物サカキの売上 額の増加	373 万円	650 万円	1,000 万円
目標 4 基山(きざん)草スキーの 利用者数	11,346 人	14,400 人	17,100 人
目標 5 基肆城跡および文化財の 見学会・遺跡探訪参加者 数の増加	150 人	220 人	300 人
目標 6 間伐実施面積の増加	3.2ha	5.0ha	7.0ha

(指標とする数値の収集方法)

項 目	収集方法
大興善寺入園者数の増加	基山町役場産業振興課より
J R ウォーキング参加者数の増加	基山町役場産業振興課より
特用林産物サカキの売上額の増加	基山町役場産業振興課より
基山(きざん)草スキー利用者数の増加	基山町役場産業振興課より
基肆城跡および文化財の見学会・遺跡探訪参加者数の増加	基山町役場教育学習課より
間伐実施面積の増加	森林山村多面的機能発揮対策交付金事業データより

・目標の達成状況以外での評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに基山町および佐賀県ホームページ、情報公開コーナーにて公開する。